

A13 : 記憶

年	No	正解	解釈
5	13	b	all この問題は、全く個別の対立関係にある事柄を列記した問題で、bce は C21 の知能検査の中で、a は A11 条件付け学習で扱っています。
			d ○: 1参照 。宣言記憶と手続き記憶は対を成す用語です。
6	10	c	all 記憶の基本的な問題です。 ・×はcで、:再生よりも再認がしやすく、再認で学習の残存が認められなくても、再学習法で、その痕跡が確認できます。 3-(1)参照 。 ・ab は 2参照 d は 3-(1)参照 e は 3-(2)を参照 してください。干渉と抑制は同じです。
7	13	b	all これも、記憶の基本的な問題です。以下の個別の説明を参照してください。
			A ×: 3-(1)参照 。精緻化や体制化により、記憶は想起しやすくなります。
			B ×: 4-(2)参照 。部位によりますが、少なくとも最も有名な HM の症例では、全く逆になっています。
			C ○: 4-(1)参照 。暗算を行うと、そのために短期記憶が使われるので、親近効果は消失します。
			D ○:意味ネットワークが大きい程、反応時間が長くなります。
9	4	d	all 記憶の基本的な問題です。以下の個別の説明を参照してください。
			a ×: 1参照 。意味記憶ではなく、エピソード記憶です。
			b × 4-(1)参照 。:これは親近効果のみであり、初頭効果が抜けています。
			c ×: 4-(2)参照 。プライミング効果は、先行刺激により後の学習効果が上がる効果です。
			d ○: カクテルパーティ効果 は記憶の問題ではありませんが、ここで扱っています。パーティーのような雑踏の中で、特定の声だけを選択的に聞く事ができることです。
			e ×: 3-(2)参照 。これは順向抑制(干渉)です。
12	22	d	all これは、B 以外は統計の内容で、E14 で扱います。
			B ○: 3-(2)参照 。記憶したときの状況が再現されると思い出すことを 文脈依存効果 といいます。
13	3	e	all この問題は、記憶というよりは知能の衰え (C21:3参照) の問題ですが、用語が記憶の内容であり、ここで扱います。
			a ○:作業記憶 (2参照) のような流動性の記憶の部分の衰えが激しいです。
			b ○:ほぼカバーできるかどうかは微妙ですが、記憶の意味ネットワークを豊かにして結晶性の記憶とすることで、いくらかは対応できます。
			c ○:遅くなります。
			d ○:これも、結晶性記憶の活用を言っています。
			e ×:流動性の記憶の訓練だけでは、記憶力の相対的な低下は避けられません。
19	4	e	all A:継時提示、B:プライミング効果、C:活性化 4-(2)参照 。プライミング効果の説明です。4-(2)では、プライミング効果とは、「先行刺激により潜在記憶が形成され、後の学習効果が上がる効果」と説明しましたが、解説では、これは「直接プライミング」の説明で、「間接プライミング」を含めると「記憶内に、その単語と対応した概念が活性化される」という問題の説明の方が適切なようです。
19	5	a	all A:符号化、B:検索、C:再認、D:再生 1、3-(1)参照 。記憶の基本的な知識の問題ですが、符号化、検索という情報科学の用語の方が使われています。